

平成27年9月4日（土）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ

《9月度農場便り》

「有機栽培と自然栽培」

9月1日は二百十日です。台風が襲来する時期で農作物にとっては凶日とされた雑節のうちの一つです。今年は盆明けから雨の多い不順な天候が続いて漸く今朝は朝からお天道様が顔をだしました。夏を惜しむ蟬の音が雑木林から聞こえてきています。白菜等の冬野菜の苗づくりが失敗気味でかぶ類で補うよう今から播種を行います。ところで昨年来自然栽培のお米作りに挑戦したいと我が農場に2年前から研修に来ている長野県佐久の大塚さんの農場に9月1日に研修生の國武君と見学に行きました。大塚さんは米作りを5町歩程栽培している本格的な米農家です。勿論トマト、かぼちゃ（息子さんが別法人で経営）など畑作にも取り組んでいます。地元の農家の方々と共同利用している糶摺り、精米施設は本格的な施設でした。基本的には有機栽培で徐々に自然栽培に転換したいと実験中で一度見ておきたいと機会を伺っていました。大泉からは車で50分程です。小生のお分けした「亀の尾」、「ササシグレ」の他「沢の花」、「農林48号」などの品種をこれからの品種選びのために実験栽培中でした。概ね順調に生育していましたが「亀の尾」は株の分けつが少なく若干貧弱でした。これは自然栽培に転換するまでの田んぼの栽培状況、田植えの時期等条件により少なくとも3年経過しないと原因は掴めません。4枚の田んぼの見学後使っている農機具、設備等も説明して頂きました。4条除草機は大変参考になりました。その後有機ハウス栽培のトマトとかぼちゃ畑に案内され驚きました。2反歩の田んぼに栽培されたかぼちゃの葉の大きさとハウス内のトマトの樹勢の大きいこと2mは優に超えて10段まで大きなトマトが実を付けていたことです。当農場のかぼちゃ、トマトに比べて3倍の樹勢、幹の大きさです。米糠と糶殻の「ぼかし」を使っただけの有機栽培と聞き何も使わない自然栽培の野菜の育成の難しさを改めて痛感しました。有機栽培への誘惑を栽培技術の向上への思いで振り切りながらの軽トラを運転し農場に帰ってきた次第です。

・当農場 大玉トマト 固定種世界一（9/4） ・小塚さん 大玉トマト F1種 麗華（9/1）



八巻珍男

メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017